

次世代ワーキンググループ
「未来の旭川への夢」

平成26年11月11日

未来の旭川への夢（次世代ワーキンググループ）

はじめに

座長 齋藤眞宏（旭川大学）

旭川市は現在岐路に立っていると言えよう。本市をはじめとする道北地域において、少子高齢化および労働人口の流出に伴う人口減少と、それによる財政悪化は極めて大きな課題である。旭川市は現在 35 万人弱の人口を抱え、北海道では第 2 の都市、仙台以北でも 3 番目の人口規模を有する。しかし、国立社会保障・人口問題研究所の人口推計によれば 2040 年には人口 25 万を割るとされている。北北海道の中核都市として地域の人々のウェルビーイングを守るためにも早急な対応が必要である。

幸いなことに旭川には豊かな自然があり、高品質の農産物や森林資源に恵まれている。台風や地震などの自然災害も少ない。旭山動物園をはじめとする全国的に有名な観光資源もある。いたずらにこのまちの未来を悲観することなく、それらのプラス面を活用して私たちの生活を質的により豊かにして行くことは可能であろう。そのためには市民が主体となって行動していく意識の涵養が重要になる。

旭川市は、次期総合計画の策定に当たり、市民主体の提言をとりまとめるため、「市民検討会議」と「次世代ワーキンググループ」を設置し、その企画・運営が旭川ウェルビーイング・コンソーシアムに委託されたところである。

「市民検討会議」は、言わば「大人世代」の議論が中心の場である一方、「次世代ワーキンググループ」は未来を担う小学生から大学生の参加による議論の場であり、「子どもから若者世代」が将来の旭川のまちづくりについて語り合うことは、極めて意義深いものであると感じた。

「次世代ワーキンググループ」は 6 月に発足し、25 名の大学生スタッフと 19 名の小学生、18 名の中学生、10 名の高校生がメンバーとなり、そして副座長である北海道教育大学旭川校の芝木美沙子教授、旭川大学の栗田克実准教授と齋藤が指導的立場で加わり計 75 名で活動を行ってきた。

愛知大学教授である岩崎正弥氏は「地域育て」という概念を提唱している。そこでは多様な背景を持つ一人ひとりがお互いに関わりながら継続的に行っていく小さな活動が重要とされている。このプロジェクトをきっかけに、72 名の次世代を担う若者が「地域育て」の思いを育ててくれることを楽しみにしている。

～未来の旭川への夢～

次世代ワーキンググループ

発表内容

1. 次世代ワーキング・グループ活動報告

- 次世代ワーキングとは？
- 小学生の提言
- 中学生の提言
- 高校生の提言

2. 大学生の提言

- 教育分野
- 福祉分野
- 安全分野
- 地域分野
- 環境分野
- 産業分野
- 観光分野

次世代ワーキングとは？

○ 目的

旭川市が進めている次期総合計画の策定に向けて、未来を担う子どもたちが主役となり、自分たちが考える旭川市への理想や想いを市に提言すること。

○ 開催日時: 7月27日, 8月10日, 8月12日

○ 参加人数: 小学生19人, 中学生18人, 高校生10人 大学生スタッフ25人

旭川市の現状

○ 地域資源

- ・山や川などの自然が豊かである。
- ・旭川家具などの代表産業がある。
- ・北日本で三番目に大きな都市である。
- ・専門的な大学が存在する。 など...

○ 問題点

- ・人口が減少している。
- ・高齢化が進んでいる。
- ・教育的ニーズに答えられていない。
- ・旭山動物園以外の魅力を発信できていない。 など...

活動報告

○【1日目】

参加する子どもたちが集まった。最初に今回の活動内容を説明し、話をしやすくするためのレクリエーションを行った。子どもたちは未来の旭川を考えるために、様々なところへインタビューに行き、今の旭川を知ることができた。



活動報告

○【2日目】

1日目の活動を模造紙などにまとめ、それを発表した。子どもたちは、自分が見聞きして知ったことを、ほかの子どもたちに伝えた。そうして様々なことを知ったことで、いよいよ未来の旭川を考えはじめる。



活動報告

○【3日目】

小中高生それぞれのグループが、西川市長に向けて未来の旭川への理想を提言した。



子どもたちの提言

○《小学生グループ》

発表は画用紙を紙芝居に見たてて行った。
小学生の考える旭川の良いところを発表。
空気がきれいで自然が多く、すべての人にとって
住みやすい旭川になってほしいと願い、提言した。

子どもたちの考える未来の旭川は…



「緑のまち旭川」



子どもたちの提言

○《中学生グループ》

福祉・教育・産業・観光ごとに、『未来の旭川』について発表。旭山動物園や旭川家具などの旭川の魅力を広めることで、一層良いまちになると考えた。

子どもたちの考える未来の旭川は…

「魅せる旭川」



子どもたちの提言

○《高校生グループ》

社会的弱者に優しいまちづくりについて発表。環境を整備したり、環境だけではなく旭川に住む人々に思いやりのある「美しい心」を持ってほしいと考えた。

子どもたちの考える未来の旭川は…

「美しい街」







未来の旭川は...

小学生「緑のまち旭川」

中学生「魅せる旭川」

高校生「美しい街」



『それでは大学生は？』

私たちの提言

- 旭川に住む人が、ここに住み続けたいと思える取り組み

(環境・地域・安全・福祉)

- 旭川を訪れる人が、ここに住みたいと思える取り組み

(教育・観光・産業)

教育分野

作成者 谷本憂太郎・福本雅大

旭川市の教育は「ニーズ」に 応えられているのか？

例えば…特別支援教育について

発達性ディスレクシア…文字の読み書きの困難性など

出現率 学習面で著しい困難 4.5% (文科省)

しかし 個別の調査 ひらがな 0.2%

カタカナ 1.4%

漢字 6.9%

(Uno et al. 2009)

国・地方自治体が把握している数値を上回っている

→本当に必要とされている教育が受けられていない可能性

(参考文献) Uno, A. et al. (2009). Relationship between reading/writing skills and cognitive abilities among Japanese primary school children: Normal readers versus poor readers (dyslexics). *Reading and writing*. 22. pp.755-789

今の旭川に必要とされている教育

- 特別支援学校の増設
- 各小中学校の改修工事
- 授業などの補助員
- 教育に関して気軽に相談できる機関の設置
- 退職した元教員などを動員する
→現場の先生の負担を軽減
- 地域の特色を学ぶ機会
- 総合大学の設立 など……

なぜ旭川に総合大学か？(1)

- 旭川は北日本で3番目の市域人口を誇る都市
人口:347,450人
(平成26年10月1日現在)
- 現在旭川には旭川大学, 旭川医科大学, 北海道教育大学旭川校の3校の大学がある

なぜ旭川に総合大学か？(2)

| 〈各都市との比較〉 都市 | 旭川市 | 秋田市 | 弘前市 |
|-----------------|--------------------------------|--|-----------------------|
| 人口/人 | 347,450 (H26.10) | 318,700 (H26.10) | 179,067 (H26.10.1) |
| 国立大学/数 | 2 | 1 | 1 |
| 公立大学/数 | 0 | 3 | 0 |
| 私立大学/数 | 1 | 2 | 3 |
| 大学計/数 | 3 | 6 | 4 |
| 学問領域 | 医学, 看護学, 経済学, 福祉学, 教育学のみ | 理工学部, 人文学部, 教育学部, 医学部, 看護学, 農学部など 広い学問領域 | |

なぜ旭川に総合大学か？(3)

主要な都市には広い学問領域を扱う大学が存在している

→旭川市には,

医学・看護学・経済学・福祉学・教育学のみ

旭川の特徴はものづくりなのに...

→工学部, 農学部, 理学部がない



なぜ旭川に総合大学か？・まとめ

- 広く学問を学べる大学をつくるべき
- 旭川の高等教育の活性化
- ものづくりに関する基礎学問を学べる場をつくる

福祉分野

作成者 大山美幸・高橋雄也



つまり…

全ての人に対して「幸福」や「豊かさ」を保障することが福祉です

「旭川市の福祉」の現状

- 児童…児童虐待, 待機児童,
若年者の人工妊娠中絶率の高さ
- 障がい者…周囲の理解度の低さ,
障がいに対しての無関心
- 高齢者…深刻な高齢化, 介護の人手不足,
孤立化
- 医療…病院に行きたくても行けない人
- 教育…スクールソーシャルワーカーの不足

「旭川市の福祉」に必要なこと(1)

- ・ボランティア団体への参加

→市民に福祉に対する理解を持ってもらう

- ・バリアフリーの強化

→すべての人が暮らしやすい旭川づくり

- ・地域での見守り活動

→児童・障がい者・高齢者において、行政だけでは把握できないことを身近な人々に担ってもらう



「旭川市の福祉」に必要なこと(2)

- ・専門職による介入の必要

→専門職者が様々な専門機関や制度に結びつけることで、少しでも多くの人に適切な支援を提供することができる

- ・スクールソーシャルワーカーを増やす

→学校等で子ども達が抱える「悩み」や「不安」をソーシャルワーカーが聞き介入し、より良い学校・家庭環境を整える



安全分野

作成者 岩谷真緒・服部佳奈

防犯ボランティアの充実

〈現状〉

- ・大学, 町内会有志, 団体, 市民委員会の参加
→一部のみ
- ・児童の登下校の見守りと3.6街での防犯など
→範囲が狭い
- ・警察署や学校も協力している
→更に広範囲での協力が必要

➡ 参加者不足

充実させるためには

- ・ボランティアに参加する市民, 団体を増やす
そのためには



- ・新聞, テレビ, 地域の回覧板, 機関誌,
行政広報誌等での宣伝の機会を増やす
- ・小学校での, 保護者や児童に対する周知活動
(学校だより等)
- ・お祭り等, イベントへの参加

地域分野

作成者 木全美樹・横石玲奈

高齢者

「地域の子どもの安全を守る」

→子どもの見守り活動を

“FURUSATO”

再生プロジェクト

子育て

子ども

「世代間交流」

居場所を提供」

→世代を問わない意見交換の
会・交流の場(知恵の伝承)

→学校の空き教室の開放や
公園の整備又は普及を行い、
子どもの放課後の居場所を
確保する

環境分野

作成者 野口諄介・藤川輝

暮らしやすい環境

〈現状と目標〉

- ・旭川の除雪総事業費は約**20億円**（平成24年度）
- ・歩道にたまった雪が視界を遮る
- ・交通事故をより減らす
- ・誰でも利用しやすい交通環境をつくる
- ・災害が少ない
→支援拠点の役割への期待

暮らしやすい環境にするには・・・

- ・除排雪の堆積場所の確保
- ・交差点の一部をラウンドアバウト（ロータリー化）
- ・すべての人に使いやすいJR・バス
→周囲の人のサポートによる体制づくり
- ・災害への意識、危機感を持つ
→学校教育での意識づくり（災害教育授業）

緑あふれる環境

〈旭川の魅力〉

- ・環境資源が豊か。
→「**緑のまち**」を目指したい。
- ・自然を生かした遊び

〈緑あふれる環境にするには・・・〉

- ・壁面緑化
- ・緑を維持するための清掃活動
- ・旭川の自然(川のまち)
→公園の充実, 水と遊ぶ環境(川遊び)

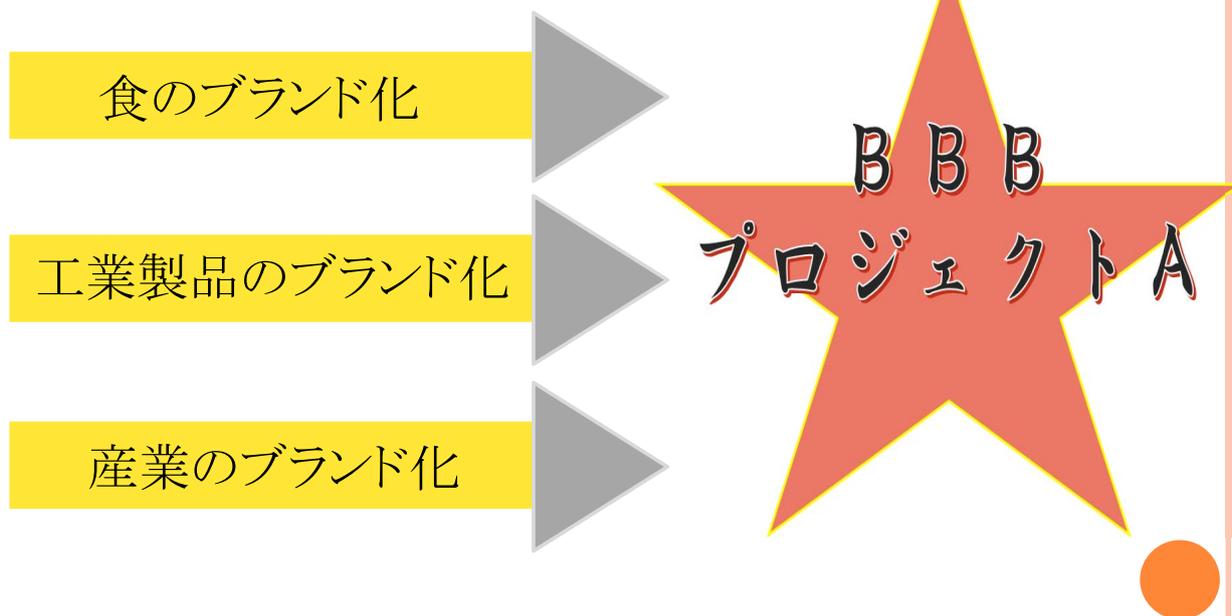
産業分野

作成者 高嶋拓人・成田明裕

産本の矢

未来の旭川:旭川ブランドの確立

問題点 :旭川の良さを生かしきれていない



そのためには・・・①

・食分野

塩ホルモンは旭川発祥。旭川ラーメンは有名。

→ホルモンをB-1グランプリに出す！

また、ホルモンのお店、イベントに積極的に出店。

・工業分野

まちにバイオトイレの設置。

まず、旭川から普及！（まちにあるお店の一階にトイレがないところが多い。→利用する！）

→環境に優しい街として成り立つ。

そのためには・・・②

・産業分野

過去、旭川家具は周辺の木材で作っていた。

しかし、現在家具の木材は輸入に頼っている。

そこで…旭川家具メーカーで行われている、

東川町の森での植林活動の支援。

→東川町と共同支援。そして、旭川家具の復活！

木材供給量(日本全体)
昭和30年 4,528万 m^3 のうち
4,279万 m^3 (94.5%)



平成24年 7,063万 m^3 のうち
1,759 m^3 (27.8%)

参考文献

林野庁.(2010).『森林・林業白書』.林野庁ホームページ

http://www.rinya.maff.go.jp/j/kikaku/hakusyo/22hakusyo_h/all/h46.html/

観光分野

作成者 小笠原利奈

旭川観光の現状

〈問題点〉

旭川の観光人数、観光宿泊延べ数が減少傾向にある。
特に宿泊客数が大きく減少しており、日帰り客が多くなっている。

| | 平成21年 | 平成25年 |
|--------|------------|------------|
| 観光客入込数 | 6,365,200人 | 5,333,200人 |

平成25年の現状
日帰り・通過客 4,795,800名
宿泊客 537,400名

旭川市役所「統計でみる旭川」
http://www.city.asahikawa.hokkaido.jp/files/soumu_soumu/toukei/

旭川観光の未来

観光入込数、特に宿泊客を増やすために...

新たな

観光名所

をつくる。

ツツジの街 旭川

・ツツジは市の花である。

そのことを利用し、旭川の景観を良くすることを始める。

→旭川駅前、高速道路周辺に植えるなど、

人の目に入るように

その花を

旭川ツツジ大作戦

・このことを

①旭川全体の景観が良くなる

②ツツジの名所として観光客を呼び込むことができる！

③花の苗を植えるボランティア活動をする事ができ、

ボランティア活動を通じ交流の機会を作ることができる！

まとめ

旭川に住む人が、ここに住み続けたいと思える取り組み

(環境・地域・安全・福祉)

旭川を訪れる人が、ここに住みたいと思える取り組み

(教育・観光・産業)

そのふたつが実現すれば、10年後の旭川は様々な想いを持つ人々が行き交う、活気ある街になることだろう。

旭川という街が、大きな目標を持つ人々が訪れ、成長できる街になることを願います。

まとめ

大学生の考える未来の旭川は…

『みんながつくる旭川』

ご清聴ありがとうございました！

代表 阿部信太郎
副代表 原 真太郎



未来の旭川への夢（次世代ワーキンググループ）

終わりに

座長 齋藤眞宏（旭川大学）

旭川市総合計画市民検討会議第1分科会の座長でもある旭川大学の栗田克実准教授と、このワーキンググループが始まる前に「これは夢があるワーキンググループだね」という話をしてきた。が、終わってみると遥かに期待を越えていたというのが率直な感想である。「心を動かされた」と言えばさらに適切だろうか。

小学生、中学生、高校生が実際に集まって議論し作業活動したのは7月27日、8月10日および12日の3日間である。しかし支援する学生スタッフはその3日間のために相当な時間をかけた。6月17日の大学生スタッフの第一回会議から始まり、講義や、実習、前期試験、さらにはアルバイトなどで多忙にも関わらず時間をやり繰りし、学生達は事前準備会議を計9回行った。5名の中心メンバーはそれらの会議のためにLINE等で連絡を取りながら試行錯誤をして準備した。時には思うように進まず、3時間を超える会議となることも少なくなかった。また、深夜まで私の研究室で議論したこともあった。その他にも小学生・中学生・高校生担当の各グループミーティングや代表と副代表、各グループのリーダーによるミーティングも行われた。それでも足りずにファストフード店で作業したこともあった。そして11月の市民報告会発表会のためにも最大限の準備をしてきた。学生スタッフの熱意と努力には本当に頭が下がる。

参加してくれた小学生、中学生、高校生の熱意にも心が動かされた。小学生グループは「緑の街旭川」、中学生グループは「魅せる旭川」、高校生グループは景観だけでなく人々の心も含めて「美しい街」という提言をしてくれた。一人ひとりがこの街のことを真剣に考えてくれた成果である。さらに高校生グループは「10年後の旭川に対し、自分たちができること」をそれぞれ発表した。ゴミ拾い、ボランティア、自分が通った幼稚園で働きたい……。私たち大人はこれらの想いに応えるために一人ひとり何が出来るのだろうか。

最後にご多忙にも関わらず小・中・高校生および大学生のために貴重な時間を割いてくださった旭川市科学館の南氏、大番寿司の岩田氏、正和電工株式会社の佐藤氏、旭川市老人クラブ連合会の大森氏、旭川遠友塾の豊島氏、旭川家具センターの桑原氏、旭川大学の高波教授、カムイ大雪バリアフリーツアーズセンターの五十嵐氏ならびに松波氏には厚く御礼を申し上げたい。

次世代ワーキンググループ参加者名簿

【小学生グループ】

| 氏名 | 学校名 |
|-------|--------|
| 北村 玲羽 | 旭川小学校 |
| 工藤 朱璃 | 旭川小学校 |
| 藤平 哲成 | 旭川小学校 |
| 加藤 颯 | 高台小学校 |
| 阪本 佳樹 | 高台小学校 |
| 古川 沙姫 | 高台小学校 |
| 吉田 永遠 | 近文小学校 |
| 五十嵐駿征 | 近文小学校 |
| 外崎 聖也 | 近文小学校 |
| 福田 紗弓 | 近文小学校 |
| 秋山 乃叶 | 知新小学校 |
| 石井 優璃 | 知新小学校 |
| 加瀬谷果練 | 知新小学校 |
| 鳴海 秋吾 | 知新小学校 |
| 金田 水晶 | 永山西小学校 |
| 北岸 凜 | 永山西小学校 |
| 青木 彩花 | 緑新小学校 |
| 石原 莉帆 | 緑新小学校 |
| 佐藤 多恵 | 緑新小学校 |

【中学生グループ】

| 氏名 | 学校名 |
|-------|------------|
| 藤江 如珠 | 神居東中学校 |
| 宮本 結 | 神居東中学校 |
| 山田 健太 | 神居東中学校 |
| 井澤せいら | 教育大附属旭川中学校 |
| 亀井 飛鳥 | 教育大附属旭川中学校 |
| 吉田 汐里 | 教育大附属旭川中学校 |
| 尾崎麻由香 | 広陵中学校 |
| 後藤 采香 | 広陵中学校 |
| 斉藤 祐斗 | 広陵中学校 |
| 高木 威吹 | 東明中学校 |
| 戸村 翼 | 東明中学校 |
| 西多 一貴 | 東明中学校 |
| 清水 颯斗 | 永山中学校 |
| 中田 朱音 | 永山中学校 |
| 藤田 音成 | 永山中学校 |
| 岩崎 将吾 | 北星中学校 |
| 佐藤 千尋 | 北星中学校 |
| 膳法 竜太 | 北星中学校 |

【高校生グループ】

| 氏名 | 学校名 |
|--------|--------|
| 相木 英都 | 旭川商業高校 |
| 相澤 綾乃 | 旭川商業高校 |
| 生田 尚也 | 旭川商業高校 |
| 西野 綾夏 | 旭川商業高校 |
| 福良 奈々 | 旭川商業高校 |
| 末永 莉々可 | 旭川大学高校 |
| 多田 七海 | 旭川大学高校 |
| 千葉 博貴 | 旭川大学高校 |
| 片田 悠太 | 旭川東高校 |
| 土田 翔平 | 旭川龍谷高校 |

次世代ワーキンググループ参加者名簿

【大学生グループ】

| 氏名 | 学校名 |
|-------|------------|
| 阿部信太郎 | 旭川大学 |
| 稲場 涼哉 | 旭川大学 |
| 岩谷 真緒 | 旭川大学 |
| 大山 美幸 | 旭川大学 |
| 小笠原利奈 | 旭川大学 |
| 小原 尚吾 | 旭川大学 |
| 河井 大輔 | 旭川大学 |
| 木全 美樹 | 旭川大学 |
| 高木 翔太 | 旭川大学 |
| 高嶋 拓人 | 旭川大学 |
| 高橋 雄也 | 旭川大学 |
| 武田 裕太 | 旭川大学 |
| 成田 明裕 | 旭川大学 |
| 野口 諄介 | 旭川大学 |
| 畑山 華澄 | 旭川大学 |
| 服部 佳奈 | 旭川大学 |
| 藤川 輝 | 旭川大学 |
| 古館 由貴 | 旭川大学 |
| 横石 玲奈 | 旭川大学 |
| 神力祐貴子 | 北海道教育大学旭川校 |
| 谷本憂太郎 | 北海道教育大学旭川校 |
| 中條 百絵 | 北海道教育大学旭川校 |
| 原 真太郎 | 北海道教育大学旭川校 |
| 福本 雅大 | 北海道教育大学旭川校 |
| 三浦 環菜 | 北海道教育大学旭川校 |

【旭川ウェルビーイング・コンソーシアム】

| 氏名 | 所属 |
|--------|------------|
| 齋藤 眞宏 | 旭川大学 |
| 芝木 美沙子 | 北海道教育大学旭川校 |
| 栗田 克実 | 旭川大学 |